

1 かなりの量になりました。今後の資料の保管を考慮し、資料のデジタル化を進めています。

2

3 **5 組織の整備と確立について**

4 **会員現勢**

北海道 15	宮城 2	秋田 3	福島 20	茨城 10	群馬 3	埼玉 25	千葉 25	東京 72	神奈川 37
新潟 12	富山 7	石川 13	長野 30	岐阜 10	静岡 5	愛知 17	三重 18	滋賀 16	京都 30
大阪 35	兵庫 40	奈良 4	和歌山 5	鳥取 20	島根 23	岡山 41	広島 3	山口 1	香川 3
福岡 13	佐賀 1	長崎 8	熊本 35	大分 6	宮崎 2	鹿児島 19	沖縄 3		

5

6 2012年度入会者は30名、退会者は34名で、会員数は632名です。団塊の世代の大量退職の波が一
7 段落した今、学図研の会員も横ばいの状態が続いています。学図研結成から25年以上経過し、第一線
8 を退く結成時の会員も多くなりました。

9 学図研の特徴である「実践を持ちより日常の図書館活動にいかす」姿勢は、多くの学校司書にアピ
10 ールするポイントです。「ニュース」やイベントなどで積極的に実践を報告して会員を増やしましょう。

11

12 **(2) 全国大会の持ち方**

13 めまぐるしく変化する社会情勢に対応するために、全国大会を毎年開催することを確認しています。
14 参加者が増えることは喜ばしいことですが、当然運営する側の負担も増大します。一方では、全国大
15 会開催を機に、支部結成の動きや会員増にもつながってきました。

16 2013年度の島根大会は、「学校司書等配置事業」などを含む第二次「島根県子ども読書活動推進計
17 画」5カ年計画の最終年度というこ とで、その成果を検証する 機会としても、島根で全国大会を開
18 催することになりました。今後の開催地も、その土地で開催する意味を考慮して候補地が出ています。

19 また、大会の運営も、すべての役割を一つの支部が担うことが難しくなっています。福島大会
20 のようにいくつかの支部で分担する協力体制を積極的に作っていきましょう。全国大会の開催が負担
21 になるのではなく、得るものが大きい運営を考えなければなりません。全国大会開催について、支部
22 やブロックで検討をお願いします。次回、2014年度第30回大会は熊本で開催の予定です。

23

24 **(3) 全国委員会、常任委員会の運営**

25 全国委員会は、大会の前後も含めて5回開催しました。常任委員会は、12月、6月に、臨時常任委
26 員会を7月東京で開きました。記録は、その都度「ニュース」で報告しています。また、全国委員
27 の討議を補い、緊急の問題を諮るために全国委員メーリングリストを活用しています。同様に、常
28 委員会もメーリングリストを活用して、全国委員会の案件の整理や議題の原案作りなどを行って
29 います。

30 できるだけ多くの全国委員に委員会に出席してもらいたいのですが、会議にかかる費用が財政の大
31 きな負担となっている面もあります。会場費の節約など、財政面の工夫をする必要があります。